



平成30年8月期

# 決算説明会

第21期

DATE 2018.10.26

AUTHOR Media Kobo

## 営業利益以下**全て増益**での着地

- ・ One to One Marketing事業好調、古いコンテンツ事業も健闘し前年同期比増収増益
- ・ セカンダリー運営タイトルの一部売却による利益 940万円（ルイスファクトリー）
- ・ 広告宣伝費を中心としたコストの効率化
- ・ 中国上海子会社における費用が想定を下回ったことによる税引後当期純利益の上方修正
  - ▶ 単体申告のため親会社株主に帰属する当期純利益に影響

## 先行投資の未回収

- ・ AI・VR事業への投資
  - ▶ 22期下期より回収開始見込み
- ・ メディア事業、一部コンテンツについて黒字化も、引き続き新規コンテンツの開発に投資
- ・ 中国上海子会社の設立に伴う創業赤字計上
  - ▶ 設立資金他、下期からは新規事業推進のため人員増

# 財政状況

# 連結貸借対照表

資産の部

(百万円)	第20期	第21期	増減額	増減率(%)
流動資産合計	2,704	2,547	▲ 156	▲ 5.8
有形固定資産	22	25	2	13.2
無形固定資産	161	164	2	1.7
投資その他の資産	289	259	▲ 29	▲ 10.2
固定資産合計	473	449	▲ 23	▲ 5.1
資産合計	3,178	2,997	▲ 180	▲ 5.7

## 連結貸借対照表

負債・純資産の部

(百万円)	第20期	第21期	増減額	増減率(%)
流動負債	901	792	▲ 108	▲ 12.0
固定負債	787	796	9	1.2
負債合計	1,688	1,589	▲ 98	▲ 5.8
純資産合計	1,490	1,407	▲ 82	▲ 5.5
負債純資産合計	3,178	2,997	▲ 180	▲ 5.7

## 現金及び預金180百万円の減少

- ・ 自己株式 102百万円（20万株）の取得（現在9.7%を保有）
  - ▶ 株主還元・事業活動の円滑性向上等を目的として
- ・ 借入額と借入返済額の差額
  - ▶ 借入金の返済 673百万円（1年内返済予定との合計）
  - ▶ 借入金 600百万円（1年内返済予定との合計）

## 十分な経営の安全性

- ・ 現金預金対借入金比率 156.2%
- ・ 自己資本比率 46.5%（前期末：46.5%）
- ・ 流動比率 321.3%（前期末：300.2%）

# 経営成績

# 連結損益計算書

(百万円)	第20期	第21期	増減額	増減率(%)
売上	2,251	2,171	▲ 79	▲ 3.5
売上総利益	944	1,126	181	19.2
営業利益	▲ 31	72	104	0.0
経常利益	▲ 45	70	116	0.0
特別利益	104	0	▲ 104	▲ 100.0
特別損失	232	0	▲ 232	▲ 100.0
税引前当期純利益	▲ 173	70	244	0.0
親会社株主に 帰属する当期純利益	▲ 110	20	131	0.0

※売上高の減少要因は、第21期より子会社において手数料等を控除した額を計上していることによるものです。

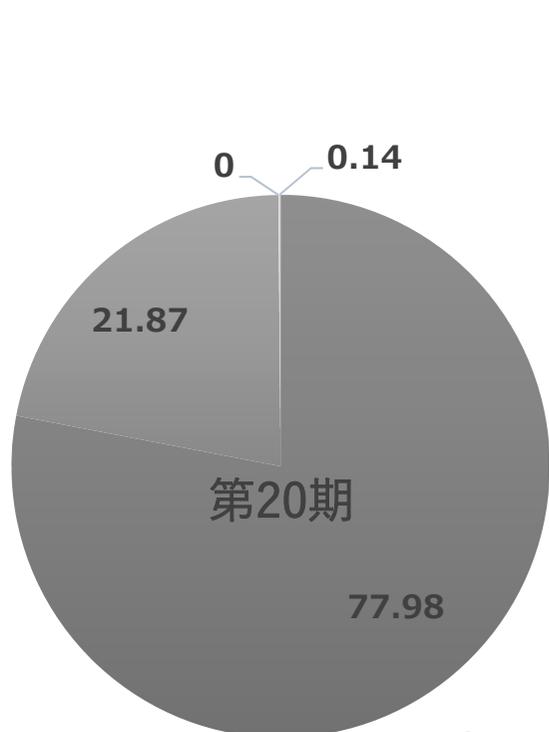
# 各事業の業績

## セグメント別状況

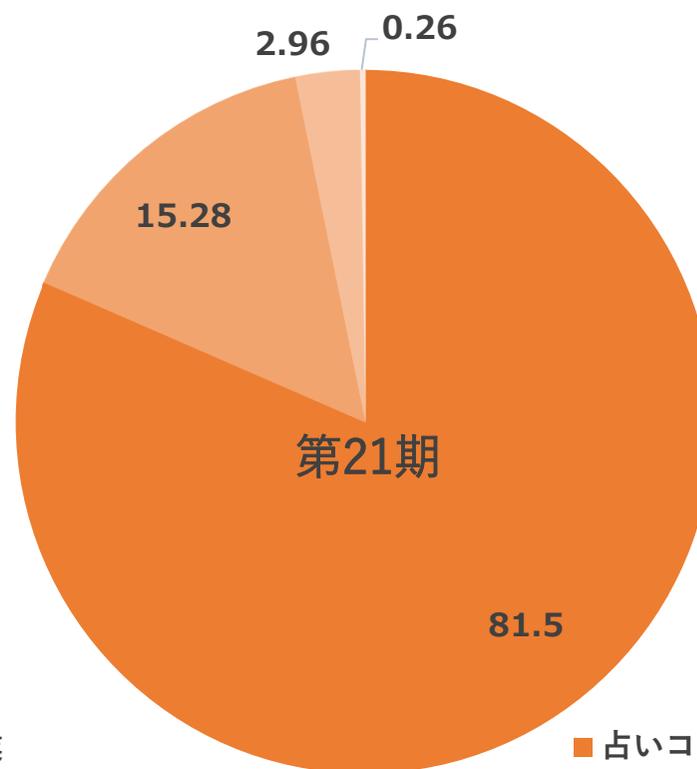
(百万円)	第20期		第21期	
	売上	営業利益	売上	営業利益
占いコンテンツ	1,755	511	1,770	540
ゲームコンテンツ	492	▲89	331	29
メディア	-	▲11	64	▲27
その他	3	▲20	5	▲94
調整額	-	▲422	-	▲375
合計	2,251	391	2,171	448

## セグメント売上構成

引き続き占いコンテンツ事業が収益の主軸



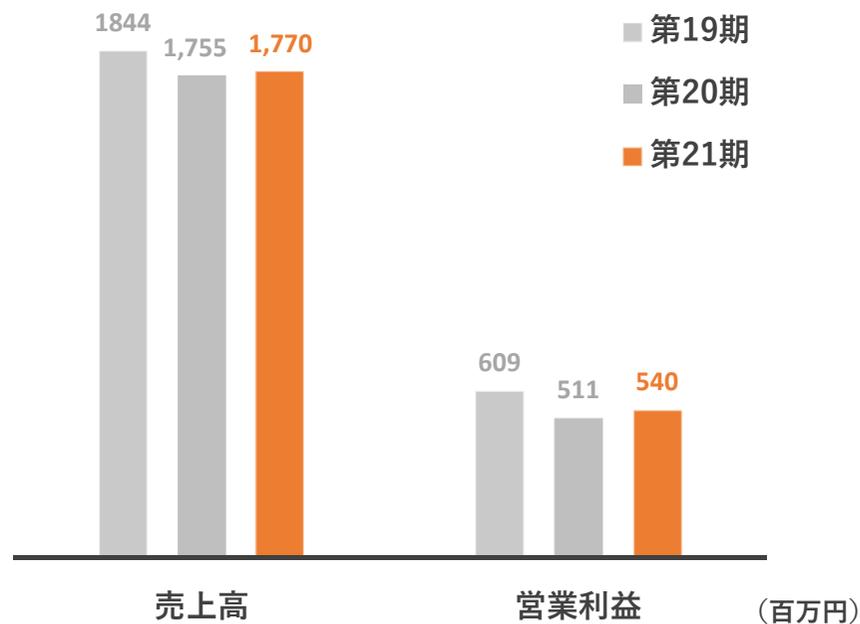
- 占いコンテンツ事業
- ゲームコンテンツ事業
- メディア事業
- その他事業



- 占いコンテンツ事業
- ゲームコンテンツ事業
- メディア事業
- その他事業

※第21期より子会社において手数料等を控除した額を売上計上していることにより、前年同期比較で占いコンテンツ事業の占める割合が高くなっております。

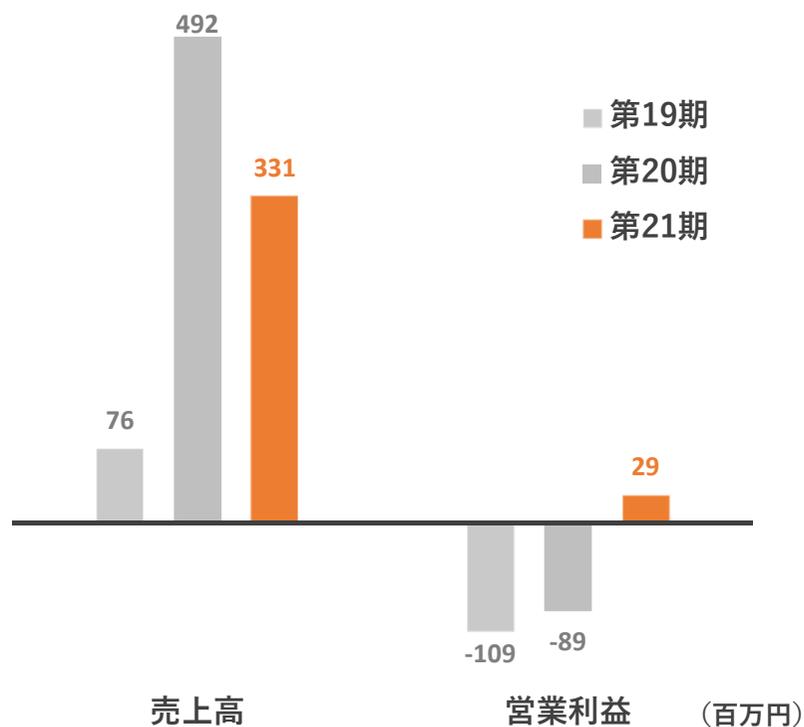
## リテンション率の向上、コスト効率化が奏功 緩やかな増収増益に



### 特記事項

- ・ 電話、チャットによる直接鑑定を中心に  
継続的かつ安定的な収益増加
- ・ 決済手段の多様化ほか  
ユーザビリティの向上に注力

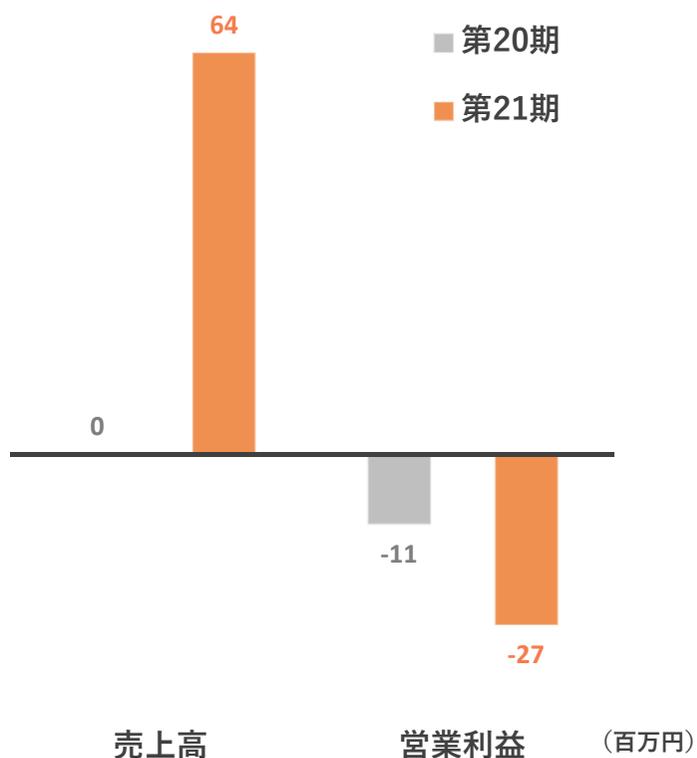
## 運営タイトルの売却益 20期に引き続き**安定性を重視**



### 特記事項

- ・一部運営タイトルを売却  
940万円の利益

## 開発費用の先行による営業損失計上



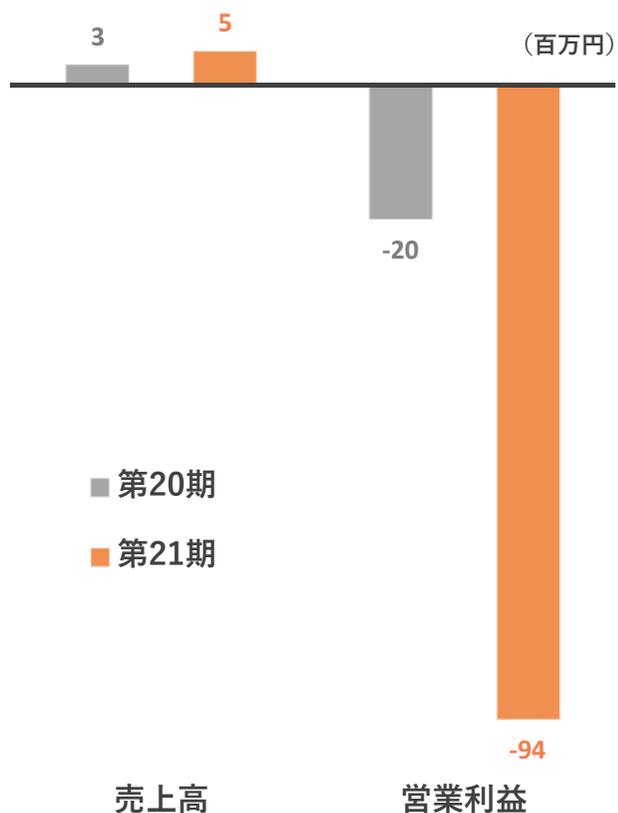
### 特記事項

- ・ 無料占いを搭載したキュレーションサイトを複数運営。21期は**広告収入**を軸に展開
- ・ 「カナウ」第2四半期以降安定的な収益**黒字**

### 損失要因

- ・ 「カナウ」黒字化安定も開発費用の期中回収には至らず
- ・ 「コイゴコロ」の開発費用により損失を計上  
期中黒字化を目指して9月より運用開始

## 上海子会社創業による営業損失計上



### 特記事項

- ・ 設立費用のほか、下期においては人員を増加。

### 損失要因

- ・ 22期より開始する越境E コマース，医療ツールズ等のインバウンド事業に向け人件費（本社営業人員の人件費を含む）をはじめとする固定費が増加。
- ・ VR関連事業における先行投資

# 第22期事業展開

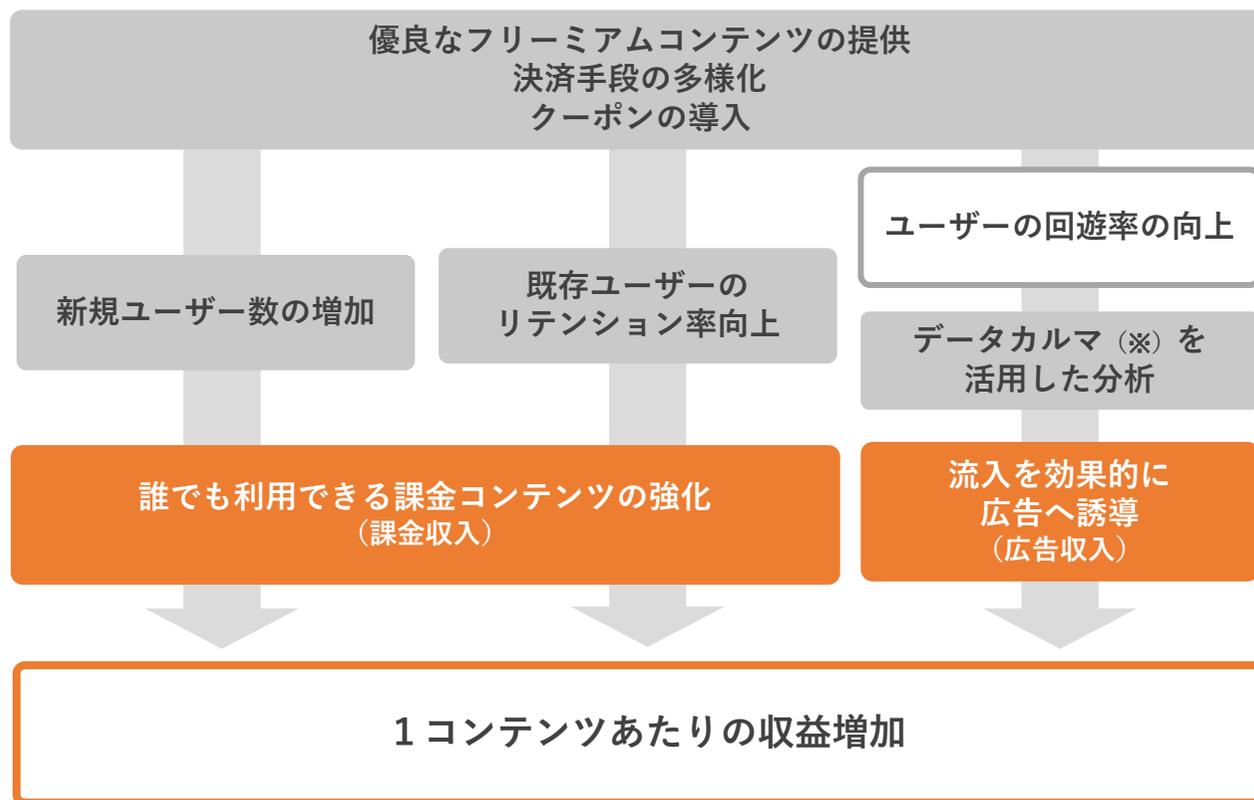
## 飛躍への第一歩となる第22期

異なるアプローチで「人と人をつなぐ」6つの事業



## 売上の回復から緩やかな増加へ

- ・引き続き安定的な収益基盤としての役割を重視。
- ・ **占いユーザー** の特徴や行動に注視した運用でサービスを強化。



※顧客データベースの分析ツール

## One to One Marketing 事業

### 収益を新規サービスへ投資



9月より開始した声による癒しのサービス「キャラデン」より良いサービス提供のため現在改修中。

### 培ったナレッジを生かす

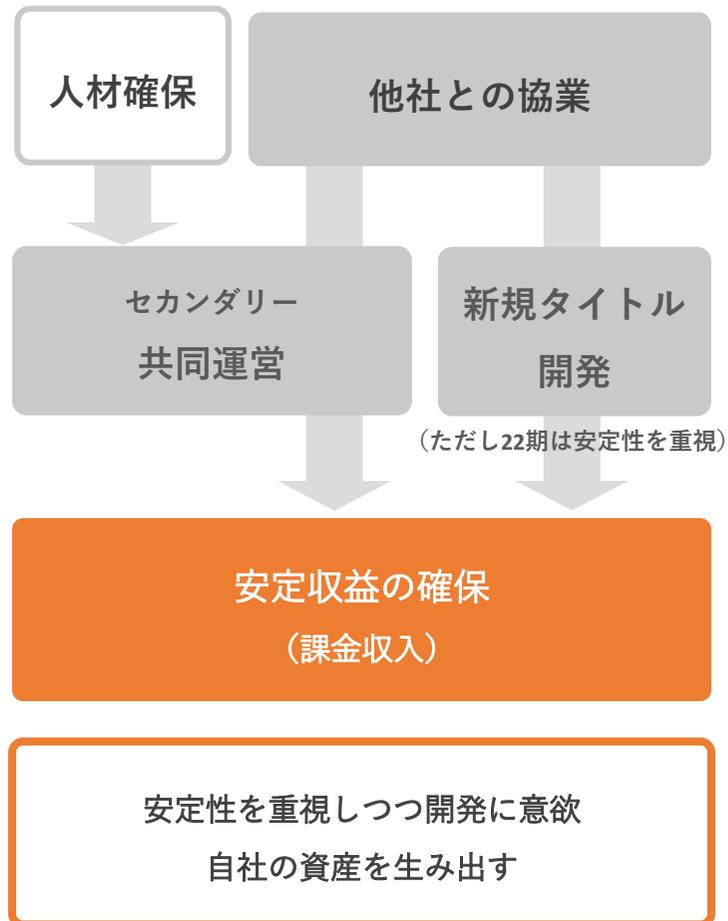
- ・電話やチャットによる直接鑑定で培ったノウハウ・システムを別サービスへ展開。新たな顧客層へのアプローチでユーザー層を拡大。

### 運営体制の強化

- ・システムの導入による運営の徹底管理。占い師をはじめとするサービス提供者の業務状況を把握し、よりよいサービスを提供する。

## ゲームコンテンツ事業

子会社による安定収入



## 新規運営移管タイトルの獲得

- ・ 自社単独の運用のみならずSQ社との協業運用も

## 1タイトルあたり収益の増加

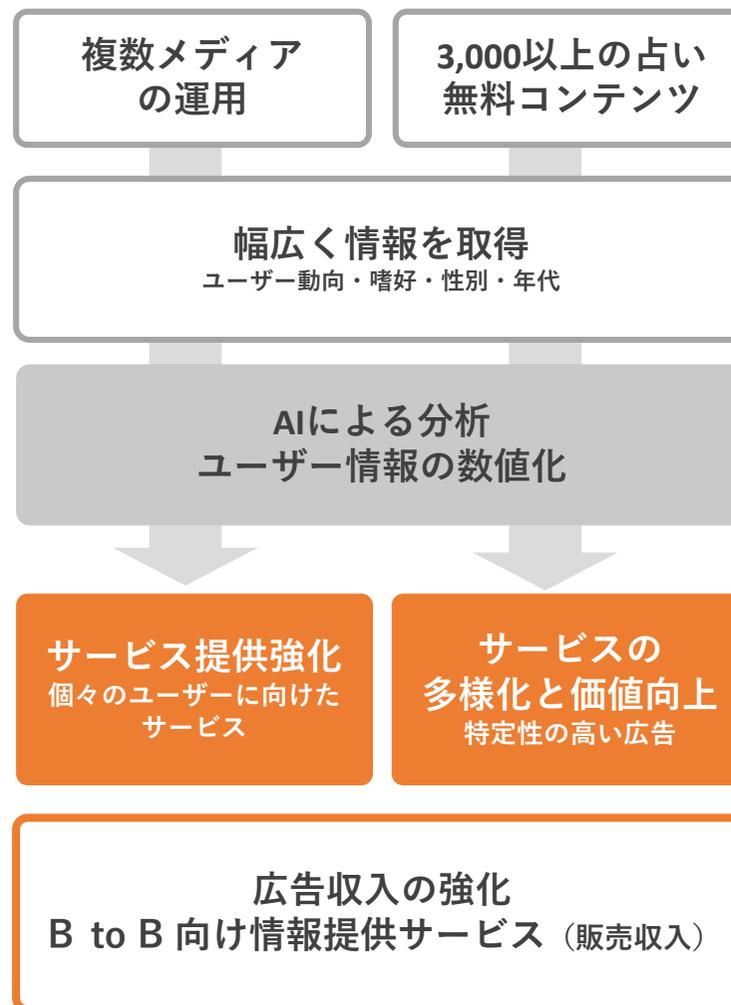
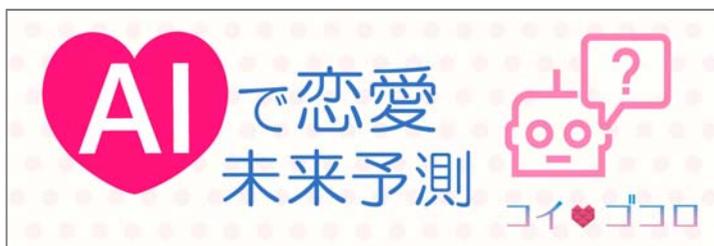
- ・ 他社IPとのコラボレーションによる相乗宣伝効果
- ・ イベントをはじめとする運営の強化
- ・ その他事業との連携 (VRコンテンツの導入)



## メディア事業

### 各サイトの広告価値を高める

- ・他事業との相互送客効果を意識したターゲット設定（20～30代女性）。
- ・AIによる分析でサービス提供を強化。さらにB to B向けサービスへと展開。



## VR, MR 事業

### 売上の回復から緩やかな増加へ

- ・ 上期は引き続きハードウェア販売とソフトウェア開発に注力。  
汎用性の高いシステムの開発で、22期以降の新たな収益形態の構築を目指す。
- ・ VRを使用した新たなコミュニケーションツールの開発。



## 越境Eコマース，インバウンド事業

国内外の子会社を中心に現地企業と連携

### 中国富裕層向けサービスの展開 医療ツーリズム事業を企画

- ・ 物品の購入だけではなく、「体験・経験」に価値を見出す層へのアプローチ
- ・ 高所得層の健康への関心に着目

### Eコマース = 継続率の事業

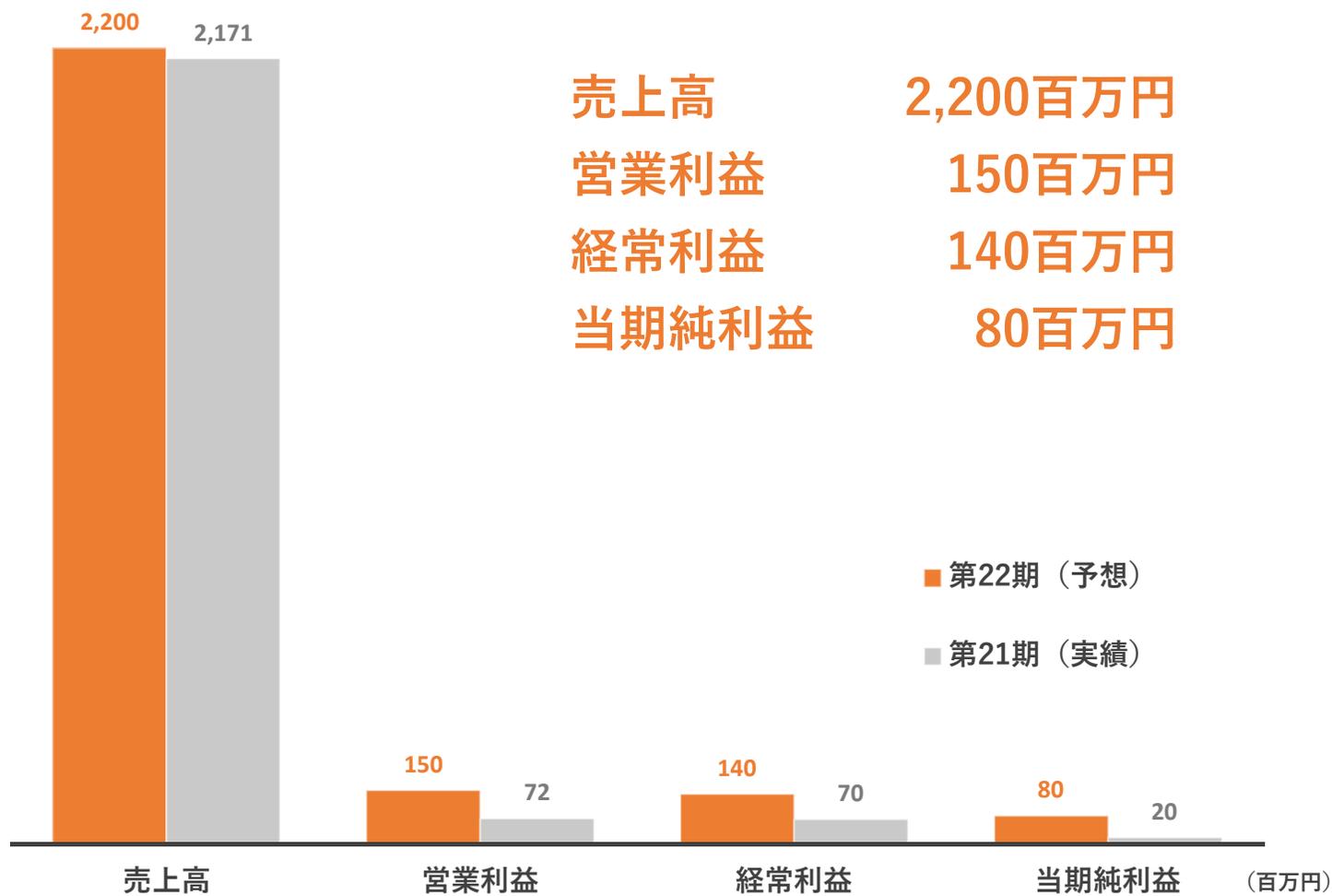
- ・ 継続性が必要となる商品・サービスの提供
- ・ アフターフォローの充実
- ・ 「必要性」と「付加価値」を備えた商品・サービスの選定



詳細後日発表予定

## 第22期連結会計年度 業績予想

着実な成長と継続的な投資の実現



# ご参考

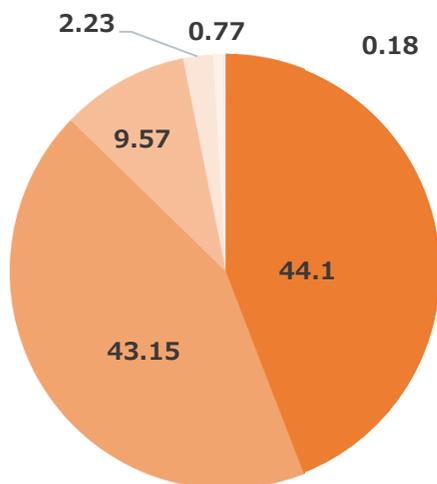
## メディア工房 会社概要

本社	東京都港区赤坂四丁目2番6号 住友不動産新赤坂ビル12階
設立	1997年10月
資本金	451百万円
従業員数	連結 132名（平成30年8月末 時点） ※契約社員等を含む就業人数
平均年齢	34.0歳（平成30年8月末 時点）
子会社	株式会社ブルークエスト 株式会社ルイスファクトリー 株式会社ギフトカムジャパン 魅仕坊（上海）互联网科技有限公司 株式会社メディトラ
上場市場	東証マザーズ（3815）
事業内容	コンテンツ制作・配信事業・各種メディア事業 他

# メディア工房 株主構成

平成30年8月末日時点

## 株主状況(所有比率)



- 個人その他 (44.10%)
- その他国内法人 (43.15%)
- 自己株式 (9.57%)
- 証券会社 (2.23%)
- 外国法人等 (0.77%)
- 金融機関 (0.18%)

総株主数 3,240人

1単元以上の株式を所有する株主数 3,181人

## 株式の状況

上場株式数	11,300,000株
自己株式数の合計	1,080,877株
役員の有所有株式数合計	2,086,200株
流通株式数	3,273,923株
流通株式数比率	28.97%

## 大株主の状況

株主名	所有持株数	割合
エヌカルテット	4,859,000株	43.00%
長沢 一男	1,930,500株	17.08%
長沢 敦子	188,000株	1.66%
桑原 崇	171,000株	1.51%
S B I 証券	113,800株	1.01%

※自己株式 1,080,877株 (9.57%) を除いた上位5名を記載しております。

## 資料に関する注意事項

- 本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。
- 本資料は、正確性を期すために慎重に作成しておりますが、安全性を保証するものではありません。本資料中の予測や情報によって生じた損害等については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 本資料に記載された意見や予測等の情報は、本資料作成時点の当社の判断によるものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変更等の様々な要因により、実際の業績及び記載されている将来の見通しとは乖離が生じることがありますのでご了承ください。

### 本資料及び当社に関するお問い合わせ先

株式会社 メディア工房  
管理部 経営企画チーム  
TEL 03-5549-1804  
FAX 03-3586-4480  
<http://www.mkb.ne.jp>